

新入職員紹介



Natsuki Kawai
川合 夏希

(3階病棟)看護師

医療職を目指したのは、叔母が看護師だったことがきっかけです。病院の看護部の目標にもあるように、患者さんの立場に立って一人一人に寄り添い信頼される看護師になりたいです。挨拶を笑顔を忘れず、日々頑張ります。よろしくお願いします。



Miho Nakamura
中村 美帆

(4階病棟)看護師

幼い頃にナース服を着ている看護師さんに憧れを持ち、自分も患者さん笑顔にすることができる看護師になりたいと思って医療職を目指しました。一つ一つ経験を積みながら先輩看護師さんたちのように明るく元気に看護を提供できる看護師になることが目標です。患者さんとの関わりを大切に、一人一人に寄り添う看護ができる看護師になれるよう頑張ります。



Erina Yoda
依田 絵里奈

(4階病棟)看護師

高校生の時、家族が病気でベッドサイドで泣いていたら、看護師さんが優しく安心できるような声掛けをしてくれて、「患者さんだけでなく家族にも寄りそう看護師カッコイイ！」と思い、看護師になろうと決心しました。その時の看護師さんのように、患者さんはもちろん、そのご家族にも寄り添い、相手の立場に立って物事を考えられるようになりたいです。元気に笑顔で頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



Misato Siomi
塩見 海智

(リハビリテーション課)
理学療法士

医療職を目指したきっかけは、高校までスポーツをしていて、理学療法士としてケガをした人たちの役に立ちたいと思ったからです。職員さんや患者さんから信頼して頂ける理学療法士になりたいです。まずは笑顔でコミュニケーションが取れることを目標にして、立派な理学療法士になれるよう頑張りたいと思います。



Manami Umehara
梅原 麻奈美

(リハビリテーション課)
作業療法士

中学生の時にに行った職場体験がきっかけで作業療法士を目指しました。患者さんの思いを一番に考えられる作業療法士になりたいです。一日でも早く仕事に慣れることができるよう頑張ります。



Kyoko Tetsuo
鉄尾 恭子

(リハビリテーション課)
言語聴覚士

中学生の時に言語聴覚士にお世話になり、その時に、理解、共感してもらえて気持ちが楽になりました。その時から言語聴覚士になり、人のために働きたいと思いました。失語症や嚥下障害など今まで通りの生活が難しくなった患者さんに対して、少しでも日常生活を取り戻せるようなリハビリを提供できるようにしたいです。1年目で不安なことも沢山ありますがこれから沢山の患者さんに出会い、成長できるように頑張りたいと思います。



Ryuji Oota
太田 龍治

(診療支援課)事務

もともと丹後地域の病院に勤めていた経験から医療・介護・福祉の連携に関心がありました。他の地域医療について知見を広げるために京都協立病院の医療職を目指しました。いち早く現場に馴染み周囲をサポートできるようになることが初めの目標です。精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。



Kiichi Akai
赤井 喜一

(薬局)薬剤師

医療職をめざしたきっかけは、綾部市は高齢者の割合が多く、医療を支えていく存在が必要と考え、自分がその一員として貢献したいと思うようになったことです。患者さんのより良い暮らしのため、職員の働きやすい環境を壊さないようにするために何がより良い行動なのかを常に考えていきたいです。薬について詳しく知り、分かりやすい説明ができるように精いっぱい頑張ります。

認知症について

認知症とは、記憶力や理解力の低下のために、ひとりでは日常生活を送るのが困難となった状態をいいます。たとえば、病院から処方されている薬の飲み忘れが多くなった、買い物に出かけて帰り道がわからなくなった、洗濯機やエアコンの操作ができなくなったなど、それまでは問題なくできていた日常的な営みが困難となり、家族や知人の援助が必要となった状態で気付かれます。



脳神経内科
渡辺 俊之

人口の高齢化にともない認知症の患者数は急速に増大しており、現在の日本では、既に約600万人が認知症を患っていると推定されています。認知症は脳の損傷によって起こります。認知症の原因となる脳の損傷には、脳梗塞、脳出血、頭部外傷、脳腫瘍、脳炎、栄養不足など様々ですが、とくに高齢者の認知症の原因として最も多く、約6割を占めるのがアルツハイマー病です。アルツハイマー病は、大脳の側頭葉にある海馬の萎縮による記憶障害で発症し、病変が頭頂葉や前頭葉に広がるにつれて空間的・地理的認知の障害や感情調整の障害もきたすようになります。認知症の原因として次に多いのが、脳梗塞や脳出血などの脳血管障害で、とくに左側の脳病変によって言葉の理解や表出の困難をともなう認知機能障害が顕著となります。しばしば構音障害やろれつ困難や歩行障害もともないます。三番目として、最近ではパーキンソン病の進行にともなう認知症や、パーキンソン病に類縁のレビー小体型認知症も増加しています。このタイプの認知症では、しばしば幻視その場に実在しない人や物が見えるや睡眠時の行動異常をともないます。さらに近年、診断法の進歩によって、アルツハイマー病の前段階として軽度認知障害(MCI: Mild Cognitive Impairment)が注目されています。MCIの段階では、記憶障害は比較的軽度で、仕事や家事には大きな支障をきたさず、単独で日常生活を送れています。患者さんは物忘れの増加に気づいて、自ら外来を受診されます。詳細な認知機能の検査を行うと、同年齢の健常者にくらべ記憶課題などで明らかに低下が確認されます。現在、MCIの患者さんは日本国内で約400万人にのぼると推定されています。



最近、人や物の名前が出てこない、人との約束をよく忘れる、薬の飲み忘れが多くなった、などの自覚がある方は受診をお勧めします。また、高齢の御両親が、同じことを繰り返しして訊ねる、10分置きに職場に電話をしつづける、衣服や身なりを構わなくなった、感情の起伏がきつくなったなどの変化が目立つようになった場合も、気軽に御相談ください。

日常生活に大きな支障はないが物忘れが目立つようになった場合は軽度認知障害、同じ質問の繰り返しや頻繁な薬の飲み忘れの場合は認知症の可能性も考慮する必要があります。

当院の「もの忘れ外来」では、軽度認知障害や認知症が疑われる患者さんに、認知機能検査や頭部MRIなどの脳画像検査を行って、認知障害の程度と原因を確認したうえで、患者さんや御家族のかたと相談しながら、治療や介護方針を策定して参ります。

新任医師紹介



Jyuri Hirao 内科 平尾 樹梨

初めまして。今年4月より就職しました平尾樹梨と申します。出身は兵庫県で、出身大学は岡山県の川崎医科大学です。総合診療科の専門医研修の一環として、当院で研修を開始しました。総合診療科専門医を目指すきっかけは、兵庫県で地域医療に従事する父の影響が大きいです。午前中と夕方に診療所で診察をし、昼間に診療訪問をするようなパワフルな父で、街で患者さんに会うと患者さんの方から声を掛けられる場面にも何度も遭遇しました。私も父のような患者さんに慕われ、頼られる医師になるという意気込みを持っています。せっかくご縁があって綾部市で研修することになったので、少しでも京都協立病院、綾部市に貢献できるよう日々精進してまいりますのでよろしくお願い致します。

～ 訪問診療のご案内 ～

訪問診療とは患者さんの病状や要望に合わせて定期的にご自宅に医師が訪問し医療を受けられるものです。

★月1～2回定期の訪問…

基本的には月2回ですが、状態が安定されている方などには月1回の訪問診療を考慮致します。

★24時間365日あんしんサポート…

夜間や休日などいつでも連絡可能。ケアマネージャーや訪問看護など、介護系在宅サービス、行政と連携しながらサポートします。急に状態が悪くなった時の対応(臨時訪問・入院対応)は必要に応じてさせていただきます。

訪問診療ではこんなことができます

- ★採血や検尿、エコー
- ★注射・点滴などの処置
- ★在宅酸素・人工呼吸器などの管理
- ★傷や床ずれの処置
- ★経管栄養の管理
- ★お薬の処方
- ★がんの疼痛管理や在宅看取り支援

住み慣れた場所で安心して過ごせるようサポートさせていただきます



費用など、詳しくは契約時に丁寧に説明させていただきます。お問い合わせは TEL:0773-42-0444(よりそい支援連携室)